

ガクアニズムの教義：23年間の実践哲学

ガクアニズムの7本の柱：核心哲学の解体

第一の柱：診断の責務 「なぜ」の優位性



学庵の指導は、単に「何を」教えるかという知識伝達を超越し、生徒が「なぜ」間違えるのかという根本原因を診断することに主眼を置いています。これは、学庵が提供するもユニークな価値提案かもしれません。このアプローチの一番分かりやすい例は、『**間違いパターン**』の**分析**』に表れています。これは、単なる技術的な誤りを超え、思考の癖（「粗雑な性格」）や環境的要因（「生活基礎知識」）までをも含む、多角的で洗練された診断といえます。この診断的アプローチは、計算ミス、文章題への取り組み、そして国語力が全教科に与える深刻な影響といった、この後にご紹介する特定の問題に関するしても詳しく述べております。ガクアニズムが目指すべきところは、単なる

「対症療法」ではなく「根本治療」を目的とした「学習の医師」のそれに類似していると言えます。診断された「病」の深刻さと、抜本的な「治療」の必要性を伝えることから始めねばなりません。私達、学庵講師のコミュニケーションスタイルは、その核心的な教育手法と密接に結びついているのです。

第二の柱：2つの受講形態 Dual Teaching System

具体的には、学庵の指導形態として標準的な「通常1：2型」と、より手厚い「完全マンツーマン1：1型」の二つのモデルを提供しています。1：1モデルの料金は1：2モデルの1.6倍となります。もちろん、入塾をご検討の方や既に在籍中の生徒様にとって、ご希望の受講形態をお選びいただけます。ただし、私達学庵講師はただ生徒ご本人や保護者様のお考えに沿うだけで何もアドバイスを行わず、全ての選択を相手に「丸投げ」することもまた無責任であると考えます。この2つのモデル

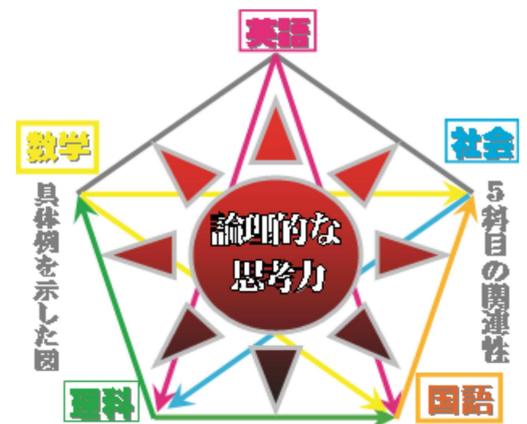
間の選択は、「診断の責務」と深く響き合います。診断の結果、1：2型指導における演習時間中に自立して学習を進めることが困難だと判断した生徒に対しては、学庵側から1：1モデルを推奨する場合があります。これには、深刻な基礎学力の不足（例：偏差値40未満）や、常に手厚い指導を必要とする生徒が含まれます。これは単なる高額コースへの誘導ではなく、診断に基づいた「処方箋」であると言えるでしょう。

第三の柱：思考力の育成 「知識では太刀打ち出来ない考える知恵」

• 「大きな正五角形」：

この視覚的な比喻は、5教科の相互関連性と、その中心に「論理的な思考力」が位置することを示しています。

これは「第一の柱：診断の責務」を実践するためのツールであり、例えば国語のような一分野での弱点が、数学の文章題のような他の分野で問題として現れる仕組みを理解するのに役立つでしょう。



第四の柱：学ぼうとする姿勢 日常の中にある学びの種

• 生活基礎知識：

漢字の書き取り問題で「しゅんぶん」を漢字に直すとします。ほとんどの小学生がたやすく正しい漢字を書けるかもしれませんが。しかし本当にその“意味”を感覚で把握しているでしょうか？

漢字そのものは書けても、機械的な暗記の末ただ書けただけならば、それを「本当の理解」と呼べません。

- 太陽は東から昇り(南寄りに)弧を描いて西に沈む事実
- 兵庫県西宮市であれば、ほぼ正午に太陽が南中すること
- 自宅や学校、近所の施設などの相対的な方角
- 太陽の位置で時刻を類推し、時刻から太陽の位置を推測する

- コンパスの使い方、それが無くても大まかな位置を探す工夫
…という基礎知識と思考が芽生えたうえで、
- 年間の四季の移り変わり、日照時間の変化
…という日々のちょっとした変化を、生活の中から誰に教わるとなく自分で何となく気付く…というプロセスを経て
「1年で昼夜の長さが半々になる」という結論に至る。
それを漢字で表したものが「春に(昼夜が)二分される日」
という漢字(言葉の語彙)を獲得する。



1つ1つが完璧である必要はありません。
でも学校だけではない、日々の何気ない出来事から
学べることはたくさんあると思います。

第五の柱：「正解してなおさらに問い続ける」 成長の無限スパイラル



「真の理解」は必ず「疑問が湧くこと」から始まります。安易に友達や大人に尋ねるばかりではなく、すぐにインターネットで調べたりする前に少しだけ自分で仮説を立ててみましょう。それから、いろいろな手段でその考え方が正しいかを試してみるのです。上手くいかない場合もあるでしょう。でも少し考え方を変えて試せば矛盾を引き起こさない解決法が見つかるかもしれません。そこで満足せずに、さらにどんな場合でも自分のアイデアが通用するか実験してみましょう。それが法則化（一般化）と呼ばれる思考です。確かな自信が得られても、さらに深い部分での疑問が湧いてきたなら、アナタはもう立派な「探求者」です。

第六の柱：職人の倫理 —— 「アンチ大手チェーン」型事業モデル

学庵は、意図的かつ哲学的に、商業的な大手学習塾チェーンの対極に位置づけられています。その運営は、商業的な規模拡大よりも教育的な本質を優先します。私達は、大手チェーン塾の「三大費用」（広告宣伝費・家賃・人件費）を否定し、自塾の差別化を明確にしています。

これは、

- 「個人宅でこじんまり」
- 「講師は夫婦2人つきりアルバイト無し」
- 「年に2シーズン、手作りチラシを近隣にポスティング」



のスタイルを徹底し、限られた人的資源をスペースの制約下で、**品質を高く 無駄の少ない授業料の適正化を図る**ための、意識的な戦略的選択なのです。これが結果として、電話勧誘や派手なWEBサイト、不明瞭な「〇〇維持費」といった大手チェーンの慣行に対する注目すべき独自路線となっています。

言い換えるなら、自身が提供する授業は心のこもった高品質だが飾らないランチだと言えます。街に並ぶ定食屋さんが提供する、「**美味しくて栄養満点、でも安心価格**の食のサービス」のイメージに近いかもしれません。

私達自身が目指していない「高級料亭」の基準での評価を期待はしません。大手チェーン塾のモデルを否定する背景には、単なるビジネス戦略を超え

た道徳的な価値を提供したいからです。

私達が過去に塾業界で働いた経験は、



「利益を優先した末に、
生徒の成績向上を“二の次”扱いする体質」

への深い「疑念」を残しました。したがって、学庵の「こじんまり」とした体制は、彼が大手業界が見失ったと信じる原理原則に基づいた、直接的かつ倫理的な自然な成り行きなのです。

第七の柱：妥協なき真正性の追求——「是は是、非は非」

私達は、洗練されているが不誠実な可能性のある「美辞麗句」よりも、正直さを重んじます。私達は、自らの真正性を曲げてまで「顧客」を獲得するよりも、それを失うリスクを 覚悟で、どこまでも

- 「その生徒の成績が伸び悩む根本原因は何か？」
- 「どうすれば本当の理解力が身につくのか？」
- 「本人が頑張らなければ何も得られない。厳しい事実をどう伝えるか？」

に心を砕きたいと考えます。

